

奥秩父の花 (夏) No.1

6~8月



埼玉県のマスコット：「コバトン」



アズマシャクナゲ 東石楠花 (ツツジ科)
Rhododendron degronianum
亜高山に生える。奥秩父に広く植生し、特に十文字峠の自生地は有名。東日本を中心に生えることから名がつく。葉の裏には淡褐色の毛が密生する。高さ2~3m。



ギンリョウソウ 銀竜草 (ジャクジョウソウ科)
Monotropastrum humile
山の湿ったところでよく見かける。葉緑素のない純白な腐生植物。姿を銀色の竜に見立てて名が付く。薄暗い林に生える様子からユレイタケとも呼ばれている。高さ8~10cm。



クリンソウ 九輪草 (サクラソウ科)
Primula japonica
山地の湿り気のあるところで群生している。輪生する花が九層すなわち多層になることから名がある。日本に自生するサクラソウ科の植物では、最も大型である。高さ40~80cm。



バイケイソウ 梅蕙草 (ユリ科)
Veratrum album ssp. oxyssepalum
山地の林内や湿った草原でよく見られる。有毒植物で、春の山菜オオバギボウシと間違えて食べると中毒を起こす。名は花が梅に似て、葉が蕙(けい、シランを指す)に似ていることによる。高さ60cm~2m。



マルバダケブキ 丸葉岳蓐 (キク科)
Ligularia dentata
やや湿り気のある草原や林のふちでよく見かける。葉は直径30cmと大きく、花も大きい。ニホンジカが食べないので夏山によく残る。



ヤマユリ 山百合 (ユリ科)
Lilium auratum
山野で普通に見られる。花の大きさは山野草のなかで1、2を競う。花は強い香りがある。球根は鱗片(りんぺん)が重なり、その形から百合の名がついた。高さ1~1.5m。



ソバナ 岨菜・蕎麦菜 (キキョウ科)
Adenophora remotiflora
山中の道脇などでよく見かける。岨(険しい所)にあることや、葉がソバの葉に似ていることから名がある。ツリガネニンジンやフクシマシャジン仲間。高さ50cm~1m。



フシグロセンノウ 節黒仙翁 (ナデシコ科)
Lychnis miqueliana
夏の草地でオレンジ色の花はひときわ目立つ。節が黒くなってセンノウ(中国原産のナデシコ科の花)に似ることから名がある。高さ40~80cm。



シモツケソウ 下野草 (バラ科)
Filipendula multijuga
日当たりの良い明るいところで見られる。花が樹のシモツケにそっくりなので名がある。シモツケの葉は裂けていないがシモツケソウの葉はモミジの葉のように裂けている。高さ30cm~1m。



ツバメオモト 燕万年青 (ユリ科)
Clintonia udensis
亜高山の針葉樹林内に咲く。オモトに似た葉とルリ色の実がツバメの頭をおもわせることから名がある。茎の頂に小さい花を数個つける。高さ15~30cm。



ハクサンシャクナゲ 白山石楠花 (ツツジ科)
Rhododendron brachycarpum
亜高山の暗い針葉樹林を彩る。葉は細長い楕円形で裏面にまきこみ、枝先に5~20個の花をつける。白山に多いシャクナゲというところから名がつく。高さ約3m。



ヤマオダマキ 山芋環 (キンポウゲ科)
Aquilegia buergeriana
山地の草地や林のふちなどでみられる。オダマキとは麻糸をまいた管のことで、花の形が似ていることから名がある。分かれた茎の上に紫褐色またはクリーム色の花をつける。高さ30~60cm。